【引用文献】

Blummer,H.G.,1969=1991 年（後藤将之訳）『シンボリック相互作用論』勁草書房.

船津衛、1995 年「シンボリック相互作用論の特質」船津衛・宝月誠編『シンボリック相互作用論の世界』恒星社厚生閣。

船津　衛、1996 年『コミュニケーション・入門』有斐閣。

船津　衛、2011 年『自分とは何か―「自我の社会学」入門』恒星社厚生閣。

Giddens, A., 1993=1993 年（松尾精文ほか訳）『社会学（改訂新版）』而立書房。

Giddens, A., 2001=2004 年（松尾精文ほか訳）『社会学（第 4 版）』而立書房。

桑原　司、奥田慎吾, 2009 年「T. シブタニの準拠集団論の可能性（2006 年度シカゴ社会学研究会報告資料）」*Discussion papers in Economics and Sociology,* 0901.

Tsukasa Kuwabara and Kenichi Yamaguchi, 2013, An Introduction to the Sociological Perspective of Symbolic Interactionism, *The Joint Journal of the National Universities in Kyushu. Education and Humanities*, 1(1): 1-11.

木原綾香、桑原　司, 2011 年「ブルーマーのシンボリック相互作用論における『3 つの前提』の再解釈に向けて」*Discussion Papers In Economics and Sociology,* 1101.

蓑口 正浩、2010 年「富山県大連事務所便り 中国人の海外留学をとりまく現状について」『環日本海経済ジャーナル』84（http://ci.nii.ac.jp/naid/40017084484）。

宮内敦男, 2005 年「中国における英語教育の現状――日本の英語教育を再考するために」『国際地域学研究』第 8 号。

岡　益巳、深田博己、周　玉慧、1996 年「中国人私費留学生の留学目的及び適応」『岡山大学経済学会雑誌』27（4）。

柴野昌山、1995 年「しつけの構図――理論的枠組――」柴野昌山編『しつけの社会学――社会化と社会統制――〔第 2 版〕』世界思想社。

Shibutani,T,1955=2013（木原綾香ほか訳）「パースペクティブとしての準拠集団」*Discussion Papers in Economics and Sociology,* 1301.

富永健一、1995 年『社会学講義』中公新書。

山久瀬洋二、2011 年（マイケル・ブレイズ訳）『完璧すぎる日本人』IBC パブリッシング。

安本真弓、2014 年「日中文化の相違に関する一考察 ： 語用論の立場から」『高千穂論叢』49(3)。